

万葉集

[vol.49]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介!



「磐姫」という イメージ



君が行き 日長くなりぬ 山たづね
迎へか行かむ 待ちにか待たむ

訳

あなたがおいでになってから日かずも長く経った。
山路をたずねて迎えに行こうか。それとも待ちつづけていようか。

磐姫皇后 卷二 八五番歌

『万葉集』には、『日本書紀』に出て

くる人物や事件に関わる歌がいくつ
か見られます。今号から、『日本書
紀』に関わる歌について二年間ご紹介
します。

磐姫は、『古事記』『日本書紀』(記
紀)に記される仁徳天皇の皇后で、
たいへん嫉妬深い人物として描かれて
います。『日本書紀』では、皇后である
磐姫のかねてからの反対にもかかわらず、
天皇が磐姫の不在時に八田皇
女を宮中に迎え入れます。これに怒っ
た磐姫は、天皇のいる宮へは帰らず、
山城の筒城(現在の京都府京田辺
市普賢寺一带)に宮を作らせて移
り住んでしまい、天皇が迎えに行っ
ても帰らず、ついにはその地で亡くな
たとされています。

今回ご紹介する歌は、『万葉集』
巻二の冒頭の歌で、「磐姫皇后の、天
皇を思ひて作りませる御歌四首」の
うちの一首です。実際に磐姫が詠ん
だ歌というよりは、磐姫の歌として

伝承された歌だと思われます。

一首目のこの歌では、天皇が長らく
磐姫のもとへ来ていない状況で、迎え
に行こうか、いや、待ち続けていよう
か、と逡巡する気持ちが歌われていま
す。続く二首では、こんなに恋に苦し
んでいないで、いつそ死んでしまいた
い。この黒髪に霜がおくようになるま
で、あなたを待ち続けよう。秋の田に
かかる朝霞のように、この恋は晴れる
ことがない。と、変化する恋心が歌わ
れます。

待ち続けようという歌の流れから
は、記紀が伝える激情の磐姫像とは
やや違った印象を受けます。古代の
人々は、記紀万葉に見られるような
さまざまな磐姫像を持っていたのかも
しれません。

このように、記紀万葉を見比べるこ
とで、より多角的に古代の社会や古
代の人々が思い描いた世界が見えて
くるのだと思います。

(本文 万葉文化館 吉原啓)

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に
関連するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん

ヒシヤゲ古墳と 佐紀盾列古墳群

奈良市佐紀町のヒシヤゲ古墳(ヒ
シアゲ古墳)は、全長220m以上も
ある巨大な前方後円墳です。現在、
このヒシヤゲ古墳は、宮内庁により磐
姫皇后の御陵であるとして守られて
います。

付近には、同じく全長200m以
上もあるような大きな古墳がたくさ
ん分布しており、それらは佐紀盾列
古墳群と呼ばれています。満々と水
をたたえた濠の中に墳丘が浮かぶか
のような古墳の姿は、壮大な景観を
なしています。



所 奈良市佐紀町
問 奈良市埋蔵文化財調査センター
☎0742-33-1821

問 県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX 0742-22-6904

4月号で掲載しました歌人名「安部沙弥麻呂」は「安倍沙弥麻呂」の誤りでした。お詫びして訂正します。